



正田 響子さん

所属団体
特定非営利活動法人 Inity
所属年数
・職員: 1年7ヶ月
・活動年数: 1年7ヶ月

今の仕事に興味を持ったきっかけを教えてください。

高齢者福祉への道を目指し、福祉大学へ進学しましたが、在学中、就職の方向性に悩む時期がありました。そんな時、友人の紹介で障がい児を支援している施設にボランティアへ行っただけがきっかけです。障がいのある子どもたちの未来に関わる喜びや楽しさに魅力を感じ、この道へ進むことを決意しました。

今はどんな仕事をしていますか?

障がいのある子どもたちが、少しでも「自分でできること」が増え、「できないことは、人に助けてもらいながら生活していくことができる力」を身につけられるよう、支援活動をしています。

具体的な私の担当業務は、送迎・現場支援・毎月のご利用調整と連絡等の事務、車両整備です。スタッフが少人数なことあり、他にも細々とした業務もその都度あります。

通常平日の流れは、その日ご利用の子どもたちを下校時刻に合わせ学校へお迎えに行き、「アイリ(施設名)」へ。全員揃ったらみんなでおやつタイム。そこからその日のカリキュラムとして、ピカソ(創作活動)・冒険(ご近所探索・買い物等の社会学習活動)・フェス(ダンスや歌等)・菜園(ガーデニング、土いじり等)・劇団(紙芝居や絵本等)等の活動を行います。18時に終わり、ご自宅へお送りします。この前後の時間に、事務やその他の業務を行っています。

子どもたちのできることが増えたり、私の知らない一面を発見することが喜びです!1年7ヶ月という短い期間ですが、大きな変化を感じています。

ボランティアとNPO職員という立場の違いは感じますか?

私が他施設等でボランティア活動をしていた時は、相手に楽しいと感じてもらい、私自身もそれを楽しみたいという気持ちで利用者の方と接していました。職員となった今は、危険なことや不意なこと(パニック等)を未然に防ぐためのサポートや事後の対応等、楽しいことだけではなく、様々な部分を見て考えて行動しなければいけません。

しかし、長く深く関わることで、端的な関わりでは気づくことができなかった成長を感じ、その喜びは大きなものです。

ボランティアさんには、1回だけではわからないことがたくさんあるので、継続して来ていただけると嬉しいです。



定森 光さん

所属団体
特定非営利活動法人
ささしまサポートセンター
所属年数
・職員: 2年9ヶ月
・活動年数: 5年

今の仕事に興味を持ったきっかけを教えてください。

北海道での大学生活を終え、名古屋で就職しました。仕事だけではもったいないと思っていた時、笹島診療所(ささしまサポートセンターの前身)を知りました。学生の頃に「ビッグ・イシュー日本版」を読んでいたということもあり、ホームレス支援や貧困問題に関心があり、ボランティアとして関わることができました。

そんな時、「笹島診療所の職員にならないか」と声をかけてもらいました。当時、診療所は職員不在でした。活発に活動していくためには、やはり職員が必要だと感じていました。私自身、ボランティアという立場ではやりきれないことも多く、職員としてやってみたいことも多かったため、職員になる覚悟を決めました。

今はどんな仕事をしていますか?

ささしまサポートセンターでは、柱となる活動が5つあります。事務所や炊き出しの場で相談を受ける「生活・医療相談」、関係機関に同行する「同行支援」、アパートで暮らし始めた人が孤立しないようにサポートする「居宅生活者支援」、次のステップに進むための準備をする「中間施設の運営」、子どもの貧困の連鎖を止めようということから始めた「学習支援」です。活動ごとにボランティアの責任者がいるので、それぞれ取りまとめをしてくれています。私は、主に活動全体に関わる事務を担当しています。

最近、当事者も一緒に楽しめる企画を考えてくれるボランティア、デザインがうまいボランティアなどいて、活動が豊かになったと感じています。先日、団体の活動を地域の人たちに理解してもらえるように、また少しでも地域の活性化につながるようという思いで、「大門軒下まつり」を開催しました。そういったイベントでも、日常の相談や事務所作業でも、本当にボランティアの力は大きいと感じています。ボランティアがやりたいことをやれるような環境をつくるのは、やりがいもあるし、楽しいです。

ボランティアとNPO職員という立場の違いは感じますか?

職員になると活動の全体が見えますし、当然、全体を見渡しながら動く必要があります。ボランティアだと部分的に関わることができず、職員が特定の活動にだけ熱心になってしまっただけですから。そういう姿をボランティアも見ています。

また、ボランティアは当事者に対して単発の関わりしかできない場合も多いと思いますが、職員は当事者に対して一支援者としても深く関わることができます。当事者と頻りに顔を合わせて活動できるので、やりがいも感じます。ただ、職員といってもボランティアのような面もあり、線引きは難しいなと日々感じています。



菜園の活動中。ご厚意で神宮公園の花壇を貸していただき、季節のお花を育てています



「大門軒下まつり」は、大門商店街の皆さんや多くのボランティアの協力で実現しました